

授業科目名 (英文名)	専門基礎演習(E) (Second-year Seminar (E))	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	
担当教員	岩瀬 真央美	所属	
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>本演習は、ICコースに所属する学生を対象として、ICコースの目標である3つの力(実践的な英語コミュニケーション力、確固とした経済学の専門知識と分析能力、異文化環境への理解と対応力)の修得うち、海外研修及びその事前・事後の学習を通じて、特に「異文化環境への理解と対応力」の修得を目指す。合わせて、海外研修を実践する中で、日本語や英語での実践的なコミュニケーション能力の修得も目指す。</p>		
講義内容・授業計画	<p><b>講義内容</b>  本演習は、事前学習において海外研修の訪問予定国ベトナムに関する基本的知識(歴史、文化、社会や日本との関係、ベトナム社会における日本の情報)を身につけた上で、ベトナムでの海外研修において現地の人との交流を図る。海外研修終了後の事後学習では、海外研修の報告書を作成して(レポート)、報告する(プレゼンテーション)。これにより履修者は、ベトナム社会での実践的な体験を通じて、ベトナムの社会や人について理解すると同時に、ベトナムの人による「日本」の理解を肌で感じとり、「異文化環境への理解と対応力」を養う。</p> <p><b>授業計画</b>  <b>前期：事前学習</b>  第1回：前期ガイダンス  第2回：海外研修の事前準備(ベトナムに関する調査と報告)(1)  第3回：同(2)  第4回：同(3)  第5回：同(4)  第6回：同(5)  第7回：同(6)  第8回：同(7)  第9回：同(8)  第10回：同(9)  第11回：同(10)  第12回：同(11)  第13回：同(12)  第14回：同(13)  第15回：前期のまとめ</p> <p><b>海外研修</b>  訪問予定国：ベトナム(具体的な訪問先は未定・履修者と相談して決定する)  期間：1週間程度を予定(履修者と相談して決定する)  時期：9月(具体的な日程は未定、訪問予定先・履修者と相談して決定する、変更も有り得る)</p> <p><b>後期：事後学習</b>  第1回：後期ガイダンス  第2回：海外研修の成果報告(1)  第3回：同(2)  第4回：同(3)  第5回：同(4)  第6回：報告書(レポート)の作成と発表(プレゼンテーション)(1)  第7回：同(2)  第8回：同(3)  第9回：同(4)  第10回：同(5)  第11回：同(6)</p>		

	<p>第12回：同（7）  第13回：同（8）  第14回：同（9）  第15回：後期及び全体のまとめ、レポートの提出</p>
テキスト	ベトナムで発行された英字新聞、英語雑誌（必要に応じて適宜指示する）。 その他（必要に応じて適宜指示する）。
参考文献	<p>今井昭夫、岩井美佐紀『現代ベトナムを知るための60章 第2版 エリア・スタディーズ 39』明石書店、2012年。  阿曾村邦昭編著『ベトナム 国家と民族』上巻、下巻、古今書院、2013年。（学術情報館所蔵）  George E. Dutton, Jayne S. Werner, and John K. Whitmore eds., Sources of Vietnamese tradition, New York : Columbia University Press, 2012.（学術情報館所蔵、禁帯出（ICコース用））  その他（必要に応じて適宜指示する）。</p>
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準  異文化環境への理解と対応力、日本語や英語での実践的なコミュニケーション能力を修得する者を合格として評価する。  成績評価の方法  事前学習（35%）、海外研修（30%）、事後学習（35%）への取り組み姿勢・参加態度を基本として、他の履修生と共同・協力してゼミに参加する「平常点」を重視して、総合的に判断する。</p>
履修上の注意・履修要件	本演習は、ベトナムでの海外研修への参加を前提とする内容・計画に沿って行われる。そのため、履修者には、やむを得ない場合を除いて、海外研修（ベトナム）への参加が求められる。履修者は、海外研修の事前事後の学習や準備・参加など、ゼミの活動に主体的かつ積極的に取り組むことが必要となる。
実践的教育	該当しない
備考	ベトナムでの訪問先は履修生と相談して決定する。なお、担当教員の専門は国際経済法、ベトナム法であるため、法律に関係する機関や関係者の訪問も考えられる。